



トンボや鳥を呼ぶ水鉢の作り方



<材料>

【水鉢】

- ・プラスチック製
- 軽く、安価
- ・陶器
- 水温上昇しにくい



※写真（直径45cm、高さ25cm）



【水草】

- ※スイレン、セリ、シラサギカヤツリ等



【枯れ木】

- ※生木は注意！
- 水中で腐る
- 生きものに有害



【伊勢さび（砂利）】

- ※約2～4kg



【メダカ】

- ※ボウフラ対策

<手順>

1 枯れ木で仕切りを作る



- ・枯れ木を組み合わせ（ひもで固定）、鉢の大きさにあった仕切りを作ります。
仕切りは、砂利を固定し水の深さに変化をつける（鳥の水浴び場を作る）ために設けます。
- ・生の木は、植物の成分が生きものに悪影響を与えるため、枯れ木を使用します。

2 伊勢さび（砂利）や石を入れる



- ・仕切りの一方に水鉢の深さ3分の1～2程度まで砂利を敷きます。
砂利は一度洗い、汚れを落として使用します。
- ・砂利は表面に凹凸が多いほど、メダカのえさになるプランクトンが棲み付きます。

3 水草を置き、水をゆっくり注ぐ

ビニールポットのまま！



・ 苗はビニールポットをつけたまま置きます。
土が水に溶けだして濁るのを防ぐためです。

・ トンボを呼ぶためには、草丈の高い水草を選びましょう。

・ 砂利が流れないように、ゆっくり水を注ぎます。水の量は浅瀬ができるよう調整します。【鳥が水浴びに来る浅瀬：水深2～6cm】

・ メダカを飼う場合は、水のカルキを抜く必要があります。
水道水でも1日放置するだけでカルキが抜けます。

4 メダカを放してボウフラ対策！

・ メダカは環境変化に弱いため、事前に水鉢の水温に慣らしてから放します。

・ メダカはプランクトンやボウフラを食べるため、えさをあげずに飼育ができます。

購入したメダカは袋のまま水鉢に入れ、水温に慣らせています。
約2～3時間、このままで！



5 トンボや鳥を呼ぶ水鉢 ～完成～

・ 蒸発して減った水は足してください。

・ メダカを飼う場合、夏には水温の急上昇を避けるため、日陰へ移動させることも大切です。



6～7月頃、ヤゴがみられる
かもしれません！！

・ 浅瀬には鳥が水浴びに来ます。なかなか鳥が来ない時は、水量を調整してみてください。